

松浦で創業という選択肢

松浦高校で毎年行われている「なるには講座」が12月10日に開催されました。

将来の選択肢の1つとして創業に関心を持ってもらいたいと、星鹿町でみやだデザイン合同会社を創業した宮田^{みやた}悟史さんが「ITエンジニアになるには」と題し、講演しました。

宮田さんはITエンジニアの傍ら、学習塾も経営。『エンジニアの7割は文系』、『パソコン1台で始められる』。また、光回線の普及やコロナ禍による非接触ビジネス転換のため、松浦市でITプログラマーの需要が増える」と語りました。



ふるさとの歴史を学ぶ

松浦市松浦文化協会は12月4日、市役所市民ホールにおいて「お宝発見講座 ふるさとの歴史と文化」を開催しました。

講師の松浦市史談会の大畑利治さん（志佐・横辺田）が自身で描いた長さ約4kmの地図を使って山寺と呼ばれる史跡に続く、志佐川沿いの街道の歴史について説明。松浦党の祖とされる松浦久公の墓参りをする殿様が籠に乗って行き来していたことなどを話しました。この日は、同協会会員など50人が参加し、座学を受けた後現地を訪れ、ふるさとの歴史を学びました。



子どもたちの笑顔を守るため

松浦市人権講演会が12月13日、一般財団法人児童虐待防止機構オレンジCAPOの島田妙子理事長を講師に招き、文化会館で開催されました。

この日は、「子どもたちの笑顔を守るためにできること」と題し、幼少期の話や子育て、家族の介護など自身の体験を交えながら、怒りの感情をコントロールする「アンガーマネジメント」について説明を行いました。

島田さんは「子どもを虐待から守るためには、大人が6秒数えて怒りを鎮めるなど実践してほしい」と話しました。



はつらつとプレー！高齢者スポーツ大会

令和2年度松浦市高齢者スポーツ大会（2種目）が、11月10日および12月12日に市民運動公園などで開催され、親睦や健康増進が図られました。上位の結果は次のとおりです

【グラウンド・ゴルフ】11月10日（市民運動公園）
1位 里クラブA 2位 星鹿A 3位 さわやかA
※里クラブAは今年5月に開催予定の長崎県ねんりんピック大会に市代表として出場します。

【バウンドテニス・団体】12月12日（文化会館）
1位 Bチーム（川副・大石・大島・北川）
2位 Fチーム（千代延・久保川・久家）
3位 Cチーム（中里・大塚・須藤・柿山）



青年農業者が松浦産牛乳で食育

松浦青年農業者会（崎村優也会長）は12月16日、上志佐小学校の児童を対象に、「食」や「農業」への関心を高めることを目的として、牛乳をテーマにした食育活動を実施しました。

児童たちは、牛乳が出荷される流れを学んだ後、当日の朝に搾乳された牛乳からバターやチーズ、プリンを作りました。また、作ったチーズと持ち寄った野菜等を使って、大きなピザを作り、石釜で焼きあげました。

作ったものを「すごい」「上手にできた」と味わい、農業への理解を深めました。



例大祭にあわせて鳥居をお披露目

今福町^{やお}雇尾地区の祇園神社・黒髪神社は12月15日、例大祭を行い、あわせて新調した鳥居をお披露目しました。

昭和40年に設置された従来の鳥居が、老朽化したため、地区の住民が協力して国内でも珍しいコンクリート製の鳥居を型枠から作りあげました。前回の鳥居作製にも携わった瀧本芳美さん（今福・仏坂）の指導のもと、見事な鳥居が完成し、7月に奉納。例大祭では神事を執り行い、餅やお菓子を撒いて新しい鳥居の完成を祝いました。



令和2年度まつナビプロジェクトの成果を議場で発表

地域との協働による高等学校教育改革推進事業として、令和2年度から文部科学省の指定を受けた松浦高校の課題研究活動「まつナビ・プロジェクト課題研究発表会」が12月24日、市議会議場で開催されました。

今年度は、昨年5月から2年生58人が11班に分かれ、自分たちが通い、暮らす松浦市内の課題を見つけ、その解決のために何ができるか研究を進めてきました。同発表会は、校内で選考された上位5班が参加し、市議会議員に向けて発表を行い、インターネットでも配信されました。

各班のテーマは次のとおりです。

- 1位 農業っていいね!! (2班)
- 2位 タータン×松浦の魅力 (11班)
- 3位 ユニバーサルデザインで快適な暮らしにリサイクル (1班)
- 4位 空き家を利用して便利でにぎやかな町にしよう (9班)
- 5位 SNSでLevel Up! (5班)

高校生の提言として、農業PR動画を作成し農業の良さを広めていく取り組みや松浦タータンを活用した松浦の魅力発信、全ての世代が快適に暮らせる街づくり、高校生フリーマーケット開催による地域活性化の取り組み、市のSNSを活用した創業を促進する取り組みなどがありました。

質疑応答の場では、「農業のイメージは変わったか」、「いいアイデアだけど今後の進展は考えているのか」など質問が寄せられ、高校生は自分たちで答えを考え、丁寧に回答していました。

